

今年度の成果と今後の課題

今年度は、「思考力」を育てるための一つ的手段として「かくこと」に焦点を当てて研究を進めてきた。自らが課題と向き合わせるため、課題と出合ったときに、既習事項を思い出しながら、絵に表したり、図や表に表したりすることで解決へとつなげていくために書かせる。書いたものを比較することにより、「速い」「簡単」「正確」「いつも使える」等それぞれの考え方や書き方の良いところを見つけさせる。学習のまとめとして、授業を思い出しながら、友だちの考えと自分の考えを比べて書いたり、学習してわかったことを自分の言葉でまとめて書いたりする、ふり返りのノート指導をしていきたいと考え実践した。

そして、各学年で次のような目標を決め取り組んだ。

- 1 学年・・・「わかる・できる」楽しさを味わいながら学習し、自分の考えを筋道立てて説明できる子を育てる。
- 2 学年・・・課題を解決するために自分なりの考えをもち、表現できる子どもを育てる。
- 3 学年・・・既習の中から必要なものを選択し、試行錯誤しながら考えを進めていける子ども、自分がどう考えたか友だちにわかるように説明できる子ども、自分の考えと友だちの考えを比べながら聞き、友だちの考えに関連付けて意見が言える子どもを育てる。
- 4 学年・・・課題を解決するために、既習を生かし。自分なりの考えをまとめられる子ども、自分の考えを友だちに伝えられる子ども、自分の考えと他の子の考えを比べ、考えを深められる子どもを育てる。
- 5 学年・・・見通しを持って自分の力で解決しようとする子ども、自分の考えを図や言葉を使って友だちに説明することができる子ども、友だちの考えを聞くことによって自分の考えを深めたり、発展させたりしようとする子どもを育てる。
- 6 学年・・・課題解決に向けて、学習の見通しを持ち、既習を活用できる子ども、他の考えと比較しながら、よりよい解決方法を導き出せる子どもを育てる。

各ブロックごとの成果と課題

—成果—

低学年

- 具体物や半具体物を使って考えたことを絵に表したり、どんな事をしたかを話させたりすることで、説明をするための筋道をつけることができた。
- 矢印（→ ←）など説明につながるノートの書き方ができてきた。
- 学習後の感想を書くことで、子どもたちの理解度を知ることができた。

中学年

- 書くことの目的を理解させて書かせることで、自分がどのように考えたのかを絵や図を使って書けるようになってきている。また、書く意欲が向上した。
- キーワード（今日の授業でわかったこと、おもしろいな、すごいなと思ったことをまとめた言葉）を使って、今日の授業を振り返って書くことで、自分の考えと友だちの考えを比べて書いたり友だちの考え方で良かったところや、次に考えてみたいことを整理したりして書くことができた。
- 自分のノートになかなか書き出すのが難しい子どもに、図、表、記号などを使うとわかり

やすいことや、板書したものを真似して書いても良いことを伝えることで、書けるようになってきている。

- ノートにまとめた意見をみんなに伝える機会を増やすことで、多くの子が前に出て説明できるようになりつつある。

高学年

- 課題に対し、「絵や図を使う」という手段で解決に迫ろうとする子どもが増えた。
- 説明を順序立てて書いてまとめようとするようになってきている。また、書いたことをもとに、論理的に説明しようとする態度がみられるようになった。
- 関係図、線分図、数直線、表などを使って説明する機会を多く取ることで、問題文をよく読み、その関係を理解したうえで解き方を説明できる子どもが増えた。

なかよし

- 課題と出会ったとき、「難しい」と感じると、すぐに「わからん。」とあきらめたり、不機嫌になったりすることが多かったが、「分かっていることを絵に表そう。」という取り組みをすることで自力解決できる場面も出てきている。

—課題—

低学年

- ノートに書くときに一つの動作に一つの説明を書くようにしたが、書く速度の方が考える速度よりも遅いので難しかった。書かせるための工夫が必要である。
- 2年生では、普遍単位として「長さ」で、cm, mm, m , 「かさ」でd L, L, mLなどが出てくるが量感を持たせるのが難しい。

中学年

- 文章題を読み解く力がやや弱い子どもが多いので、課題を書く、読む、数字をピックアップするなど、スモールステップで少しずつ理解をすすめていくことなどが必要である。
- 子どもが互いの考えを伝え合い、互いの意見を尊重し、自分の考えを高めるような集団思考場面を作り出せるようにしたい。

高学年

- まだまだ、自分の考えを表現できなかつたり、何も書けなかつたりする子どもがいるのも実態なので、日々の取り組みの積み重ねをしていく必要がある。
- 説明の文は書けるようになってきているが、それを発表するとなるとまだまだ言葉不足のところが出てしまい、うまく伝えられないことが多々ある。
- 図をかくことを何度も繰り返すが、なかなか定着できない子どももいる。

なかよし

- 課題の場면을イメージするのが難しいことが多いので、絵や図をかいたり具体物や、半具体物を使ったりして考えていく必要がある。

などが挙げられた。

今年度、思考力を育てる手段として、「かくこと」に焦点を当てた。成果として、子どもたちの発言や考え方に深まりが出てきた。しかし、発達段階に応じた目標の設定や具体的なノートの書かせ方など、まだまだ共通理解をして取り組まなければならないことなどがあり、来年度も引き続き「書くこと」に焦点を当てて、研究を進めていきたいと考える。